

南空知定住自立圏共生ビジョン（案）に対する意見募集（パブリックコメント）結果

<意見募集期間 令和7年2月18日（火）から3月11日（火）まで>

1 提出者数 3人（全5件）

2 項目別の意見数

区分	意見数
第1章 南空知定住自立圏の概要	0件
第2章 南空知圏域の概況	0件
第3章 南空知圏域の将来像	0件
第4章 定住自立圏において推進する取組み	2件
第5章 施策の評価と進捗管理	0件
その他	3件
計	5件

岩見沢市

南空知定住自立圏共生ビジョン（案）に対する意見募集（パブリックコメント）結果

	項目	属性	ご意見・ご提案の内容	圏域としての考え方
1	その他	長沼町 40代	圏域内の長沼町の住民として、一点公共交通についてお願いがあります。 計画では、まちの中心部へのアクセスを充実させるとの記載がありますが、南空知エリアの魅力を活かし、流動人口や移住を増やすためには、新千歳空港と札幌に近いという立地をアピールするのが一番です。近年はオーバーツーリズムの負の側面が報道されていて、まちが知られ、多くの人々が来たり、企業誘致が進むのが必ずしもそのまちに住む人にとっていいかは疑問ですが、地元の人のために、自家用車やレンタカーを使わなくても市町村を越えて自由に動ける、そんな公共交通があれば、今、札幌方面に向かう足が少しは由仁、栗山、岩見沢方面に向かうかもしれません。予約制のデマンドバスでも構いません。中心部と中心部を結ぶだけではなく、廃線が危惧されている室蘭本線の各駅に、列車に接続できるバスがあれば、他のまちからでも乗車したいと思っている人はいるはずです。 地域の資源を守るために、できる範囲で協力しながら暮らす、そんなエリアは、カフェや雑貨屋がいっぱいあるというまちより魅力的だと感じます。	南空知圏域については、札幌や新千歳空港に近いという地理的特性があり、共生ビジョン(案)においても、地域性を表す主要素の一つとして踏まえたうえで、目指すべき圏域の将来像を掲げたところではあります。 また、公共交通につきましては、圏域内の自治体を結ぶ鉄道や路線バスと、生活路線として自治体内を運行するコミュニティバスや乗合タクシーなどによる面的ネットワークを確保するために連携・協力した取組みを進めることとしています。
2	その他	40代	最近の夕張高校は超少子高齢化と過疎化により全校生徒数が激減してきて、近年の夕張市は過疎化で人口が激減してきて、これ以上生徒数が激減してる夕張高校をそのままにしてたら閉校されて本当にとても困るし、これから廃校を阻止するために中学校を卒業する岩見沢市民たちを夕張高校に通学させたいから、それで岩見沢市民たちを夕張高校へ通学させるために岩見沢市から夕張高校までバスで運行させたいので、本当に何とかしてください。	夕張市をはじめ、南空知の各市町の人口減少とともに、少子化についても今まで以上に加速化することとなりますので、北海道教育委員会が所管する高校の適正配置に対しても、高校存続に向けた各市町の取組みが重要となってきます。 定住自立圏では、共生ビジョンの計画期間内に学校教育分野についても協議を進める予定ですので、ご意見につきましては参考とさせていただきます。 また、公共交通につきましては、圏域内の自治体を結ぶ鉄道や路

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。（明らかな誤字等と判断されるものを除く。）

	項目	属性	ご意見・ご提案の内容	圏域としての考え方
				線バスと、生活路線として自治体内を運行するコミュニティバスや乗合タクシーなどによる面的ネットワークを確保するために連携・協力した取組みを進めます。
3	その他	40代	最近が高齢化社会と人口減少社会により(墓じまい)が進んで、近年の墓は核家族化と後継者不足により合葬墓が増えてきて、これから夕張市営墓地に合葬墓を設置させたいので、そのことを夕張市にメールを送ったから、本当に何とかしてください。	墓じまいは、少子高齢化や核家族化の進行に伴う、全国的な課題であります。 定住自立圏では、共生ビジョンの計画期間内に環境・衛生分野についても協議を進める予定ですので、ご意見につきましては参考とさせていただきます。
4	第4章 教育分野 学校教育カ テゴリ	美唄市	高等学校間連携による教育の充実と地域活性化 南空知圏内の高等学校には、さまざまな専門学科やコースが存在し、さらに高等養護学校も設置されています。これらの学校が連携することで、地域全体の教育環境の充実や生徒の多様な学びが促進されるとともに、地域社会の活性化が期待されます。特に、高等学校間連携による単位認定制度を導入することは、以下1～5のような多くのメリットをもたらすと考えられます。 1. 学習機会の多様化と進路選択の幅の拡大 異なる専門学科やコースを有する学校間での連携によって、生徒は自校の枠を超えて他校の授業を受けることができ、専門分野を深めたり、異なる分野の知識を広げたりする機会を得られます。たとえば、農業や食物、福祉、商業、工業など、さまざまな分野の専門知識を学ぶことで、将来の進路選択の幅が広がり、より多様なキャリアパスを選ぶことが可能となります。こうして、地域産業や社会に貢献できる人材の育成が進みます。	圏内の高等学校間連携による単位認定の導入は、多くのメリットをもたらす可能性がありますが、本制度の導入には、北海道教育委員会や各学校との様々な調整が必要となります。 定住自立圏では、共生ビジョンの計画期間内に学校教育分野についても協議を進める予定ですので、ご意見につきましては参考とさせていただきます。

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。(明らかな誤字等と判断されるものを除く。)

	項目	属性	ご意見・ご提案の内容	圏域としての考え方
			2. 学校間連携による協働学習と社会性の向上 他校の生徒との交流や共同学習が増えることで、生徒は異なる視点を持つ仲間と協力し、問題解決に取り組む経験を積むことができます。これにより、コミュニケーション能力や協調性が向上し、将来の社会で求められる人間力が養われます。また、学校間連携による単位認定が実現すれば、より柔軟な学びのカリキュラムを設計でき、学びの深さと幅を同時に追求できます。 3. 地域産業や地域社会との連携強化 圏内の学校間で連携が進めば、地域の企業や産業との連携が一層強化され、インターンシップや実習の機会が増えることが期待されます。これにより、生徒は実社会での経験を積み、就職後も地域に根ざした活動ができるようになります。また、地域社会と深く関わることで、将来の定住者や地域の担い手としての意識が育成され、地域全体の活性化にもつながります。 4. 特別支援教育との連携と共生社会の実現 高等養護学校との連携を深めることで、特別支援が必要な生徒に対する理解と支援が進み、より包括的な教育が提供されます。連携を通じて、生徒たちは平等に学び合い、共生社会の実現に向けた意識を育んでいきます。また、特別支援を必要とする生徒にも自分に合った学びのペースで、より柔軟に教育を受けることができる環境が整います。 5. 教育資源の有効活用と効率化 高等学校間で資源を共有し、例えば専門的な施設や教材、指導者を複数の学校で活用することで、教育の質が向上します。学校間で単位認定をすることにより、生徒は自校だけでなく他校の設備や教材を有効に活用でき、地域全体の教育資源が最大限に活用	

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。（明らかな誤字等と判断されるものを除く。）

	項目	属性	ご意見・ご提案の内容	圏域としての考え方
			されます。これにより、教育環境の質が向上し、地域全体の教育レベルの向上にも貢献することが期待されます。 結論 南空知圏内の高等学校間連携は、生徒の学びの幅を広げるだけでなく、地域産業との結びつきを強化し、地域活性化にも寄与する重要な施策です。単発や一時的な学校交流行事ではなく、高等学校間連携による単位認定を導入することが、各学校の特色を活かしつつ、生徒に多様な学びの機会を提供し、地域全体の教育・社会・経済の発展につながると確信しています。こうした取り組みを通じて、地域に根ざした人材の育成と地域活性化を進めることが重要です。	
5	第4章 産業振興分野 農業カテゴリ	美唄市	中高年層を含む新規就農者支援の重要性 定年後に農業に従事する「定年就農」など、中高年層を対象とする新規就農者への支援も充実が求められます。これまでの社会経験を活かした多様な人材の参加が、農業界の発展だけでなく、地域社会の活性化にもつながります。 さらに、中高年層の就農をきっかけに、その子や孫世代も関係人口や交流人口として地域と関わる機会が増えることが期待されます。このようなつながりが深まることは、将来的に移住や定住の促進にも寄与し、地域の持続的な発展につながる可能性があります。 したがって、新規就農支援においては、若年層だけでなく中高年層も視野に入れた包括的な施策が必要です。	共生ビジョン(案)においては、新規就農者に対する農業研修や就農後の経営安定に向けた支援、後継者対策等、農業を支える担い手の育成・確保により、農業従事者の高齢化と担い手不足の解消を図ることとしておりますが、具体的な取り組み内容は、今後協議することとなりますので、ご意見につきましては参考とさせていただきます。

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。(明らかな誤字等と判断されるものを除く。)